人は、未知の可能性を傍において、その時、その時を楽しんで生きていられるときに、自分も伸びることができるし、他人をも幸福にすることができるのであると思う。子どもがそうであり、老人も同じである。毎日を楽しむことのできる老人と共にいるときには、心が和むし、何かを学ぶことができる。どんなに社会的に有能だった人でも、自分で楽しむことを知らない老人は、自らも焦躁と不満の中にあるだろうし、周囲の人にも、そのつもりでなくて、緊張と苛立ちを生んでしまう。それは特定の能力の問題ではなくて、長い間に積み重ねられてきた、その人の生き方の問題である。

楽しんで遊ぶ子どもの傍にあるとき、おとなも安定感を覚えるし、おとなと子どもは平和に共存することができる。子どももまた、楽しんで何かをしているおとなの傍にあるとき、落ち着いて自分の生活をすることができ、また、そのようなおとなにひきつけられるであろう。教えることで頭が一杯になって、自分で楽しんでいない教師の傍にあって、子どもは自分の生活を楽しむことはできないであろう。楽しんで生活しているかどうかということは、そのことがいろいろな意味でうまくいっているかどうかということのバロメーターであるともいえる。人間の生活は楽しめることばかりではないが、それだからこそ、どんなときにも楽しむことのできる人を育てることは、長い人生を考えたとき、たいせつなことであると思う。

子どもと共にあるとき、子どもと心から楽しむこと、またそうすることを学んでゆくことは、教師にとっても、親にとっても、最もたいせつにすべきことである。作品のでき上りも、遊びの成果も、その楽しむ過程にこそ意味があるのであって、そこにその子どもらしさがあらわれるのである。

（津守）

幼児の教育　第七十五巻第十号

十月号　© 定価二〇〇円

昭和五十一年九月二十五日印刷
昭和五十一年十月　一　日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行者　津　守　真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所　図書印刷株式会社

011 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら，おとりかえいたします。